

経営比較分析表

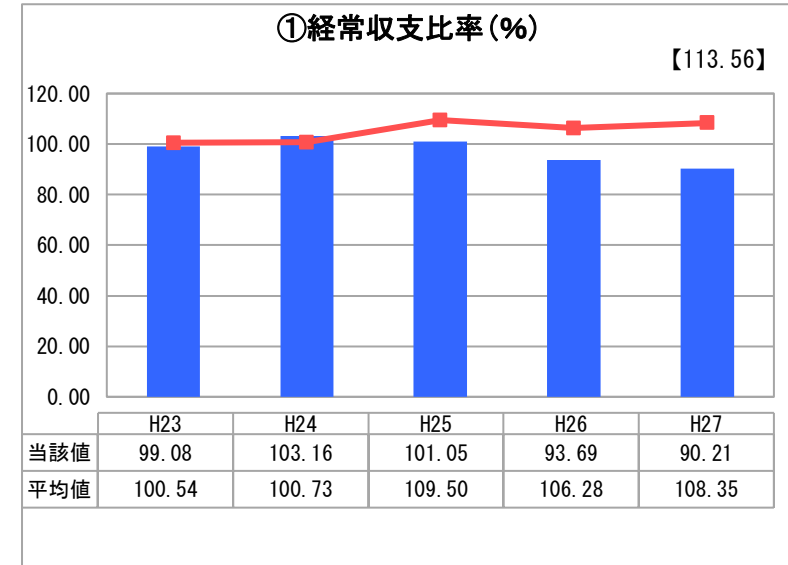
北海道 沼田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A9
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	89.80	99.19	5,435

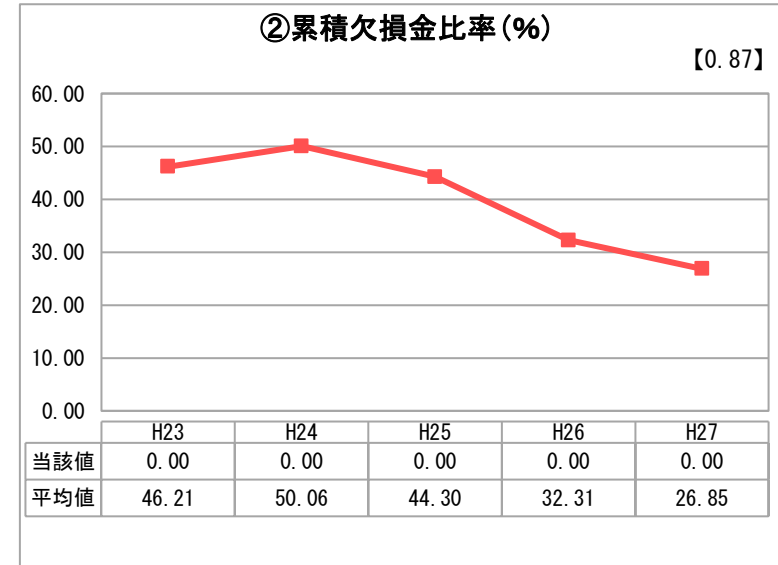
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
3,258	283.35	11.50
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
3,182	28.01	113.60

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成27年度全国平均

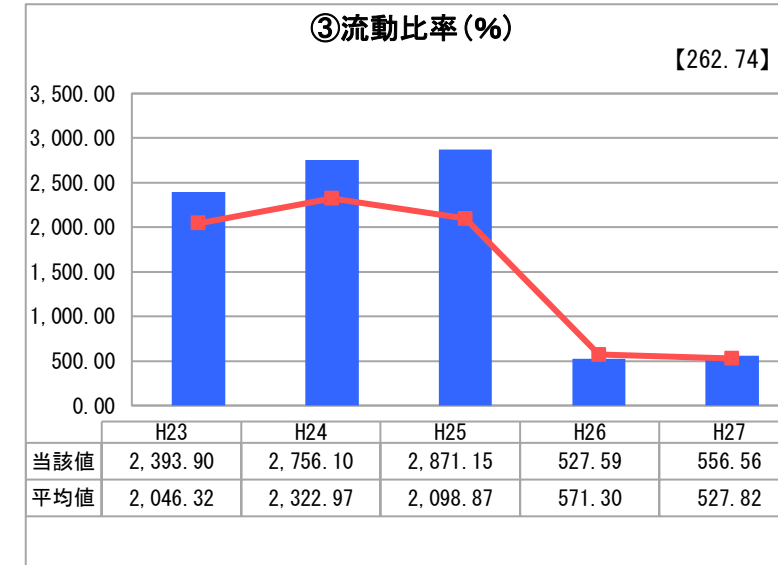
1. 経営の健全性・効率性



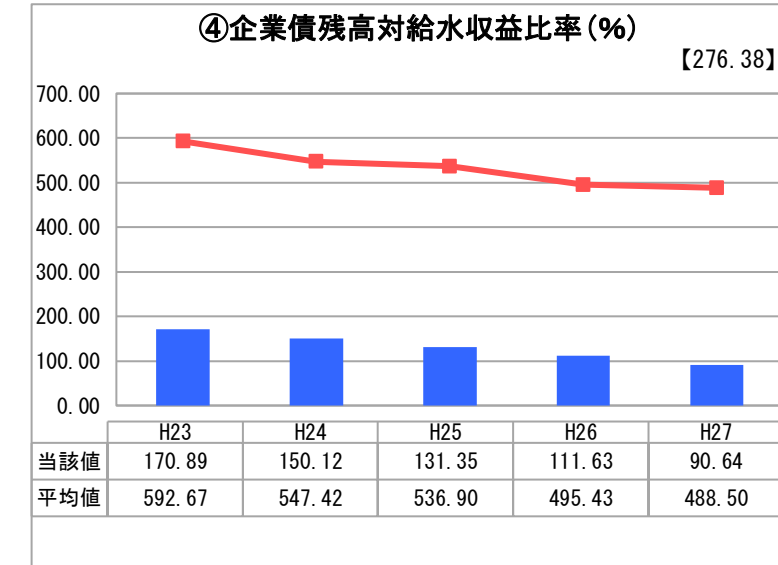
「経常損益」



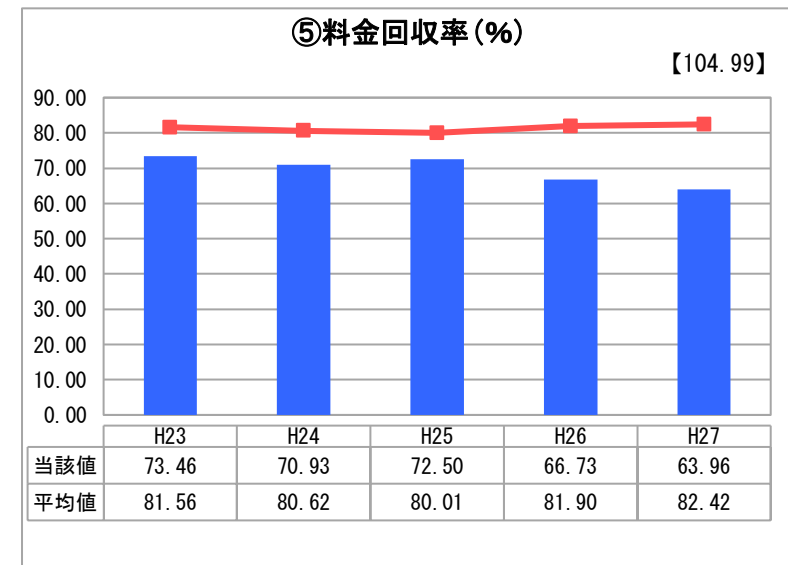
「累積欠損」



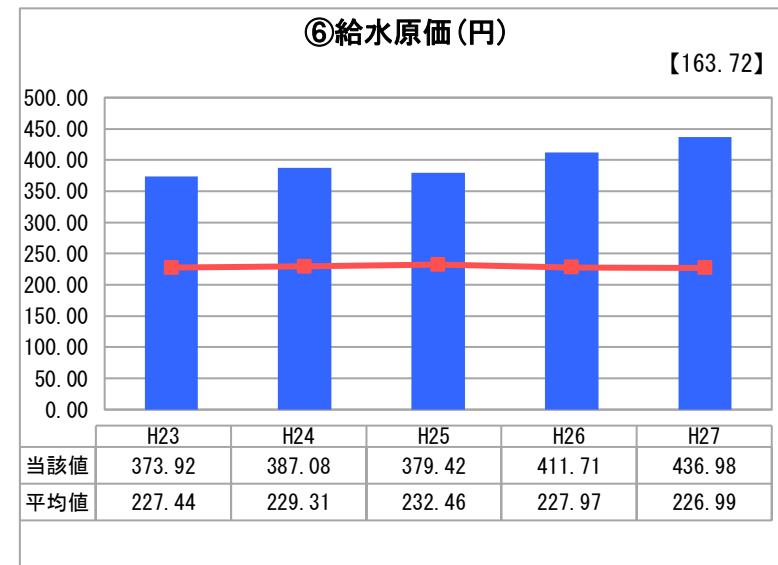
「支払能力」



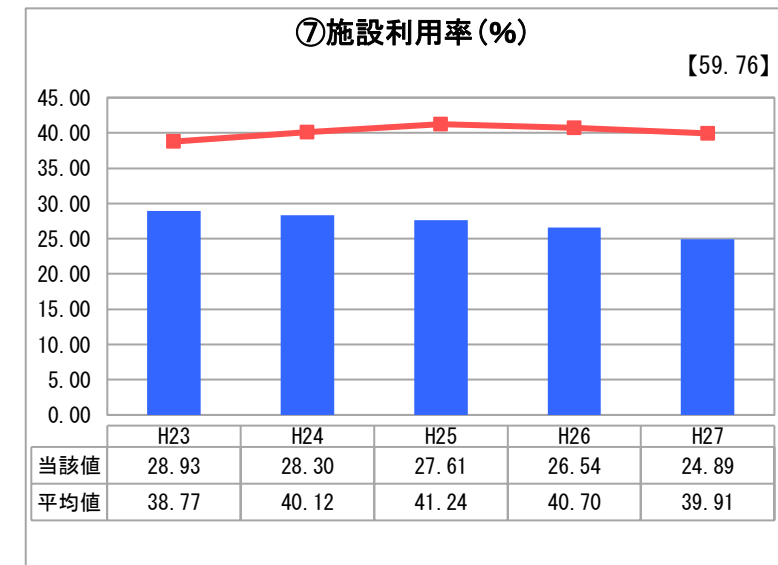
「債務残高」



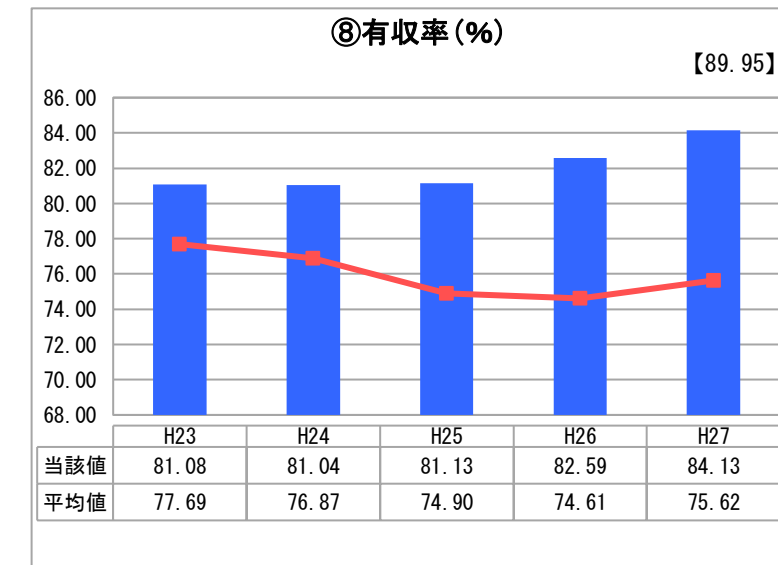
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

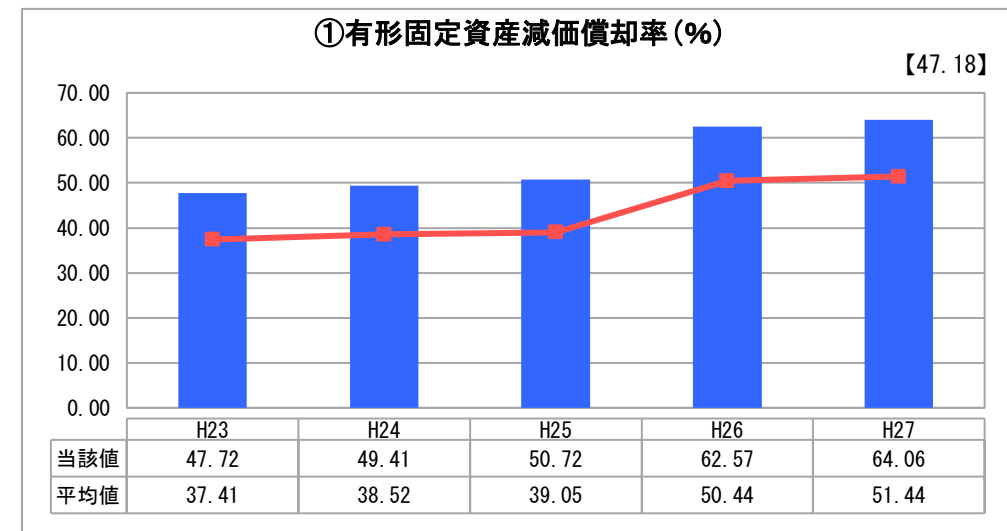


「施設の効率性」

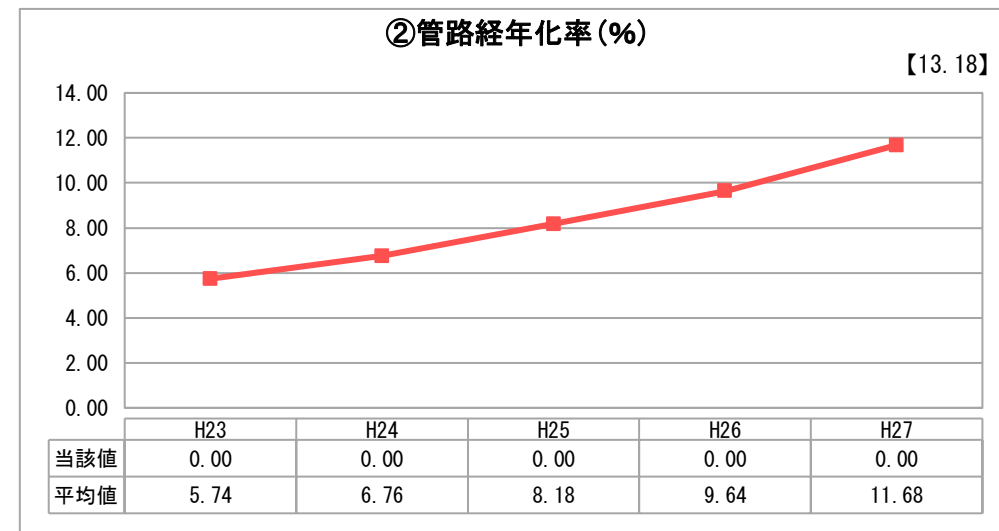


「供給した配水量の効率性」

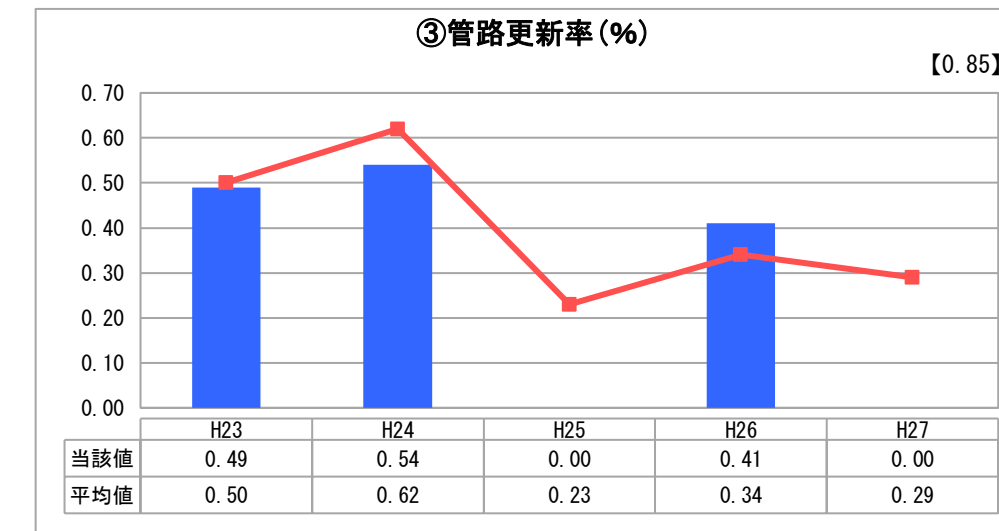
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

現状、現金1億(利益剰余金4千万・内部留保7千万)となっているが、今後5年間の収支見込は慢性的な赤字(500万~1,500万)となっており平成36年度には資金枯渇が見込まれる。資本収支においては、企業債元金償還以外の減価償却相当分を施設更新財源としていたが、資金枯渇に備え毎年の更新に留意する必要がある。収益的収支においては、可能な限り健全経営を目指し、費用削減・料金改定・その他資金手当の方法を検討する必要がある。また、本町は配水地2箇所・配水ポンプ場2箇所であり相対的に費用が嵩む傾向がある。未使用設備の除却や配水管網の見直し、管設備の長寿命化など維持費の減少を推進する必要がある。

2. 老朽化の状況について

昭和40年代までの老朽管の更新はほぼ完了しているが、昭和50年代の老朽管も若干あり、今後更新需要が高まる可能性が高い。

全体総括

長期的には資金不足が見込まれるが、現時点では健全経営である。今後においては、老朽管更新・工事費等高騰による費用増加、人口減による料金収入減が見込まれるが、効率的な収入確保及び費用削減を検討し、持続的な水供給体制を構築する必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。